

2018年8月3日

『全国大学一覧』『学校法人一覧』等の推薦文

両角 亜希子

東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース 准教授

文教協会が解散し、『全国大学一覧』等が発行されなくなるのではないかと心配していたが、地域科学研究会から発行することになったと聞いて、大喜びですぐに4冊セットすべてを購入した。大学経営の研究者である筆者にとって、『全国大学一覧』等は貴重な研究資料の一つである。大学の経営を考えるうえでは、規模と品ぞろえ（学部学科構成）が最も基本となるが、『全国大学一覧』は全大学のそれが収録されている。『全国大学一覧』の備考欄にでている組織新設・改組の沿革もざっと調べたいときにとっても重宝している。筆者はこの備考欄をぱらぱら眺めて、いくつかの大学を比較するのも好きである。『全国大学一覧』を読み物として活用している人は相当のマニアだけかもしれないが、大学経営を研究する側だけでなく、実施している側にとっても、規模と品ぞろえとその沿革が一冊にまとまっているものは非常に参考になるのではないかと思う。

民間業者も大学の基本情報をそれぞれ独自に収集し、毎年、書籍として販売しており（たとえば、読売新聞『大学の實力』、蛍雪時代『大学の真の實力』、朝日『大学ランキング』等）、これらも毎年、購読しているが、『全国大学一覧』にしかない利点もある。たとえば、1. 全大学の網羅性、2. 戦後からほぼ同じ形式でデータを取っている継続性、3. 民間業者が全く扱っていない大学院に関する情報も同じように扱っている点にある。各大学の学長や学部長等に対してアンケート調査を送らせてもらうことも多いが、住所や学長の氏名なども『全国大学一覧』を用いてリスト化している。

筆者らは毎年、大学定員データベースを『全国大学一覧』をもとに入力・更新しており、研究の基本材料としてかなり活用している。文教協会が解散し、『全国大学一覧』が発行されなくなったとき、最も困ったのは大学院の定員を一覧できる媒体がなくなってしまったことであった。各大学のホームページを見れば数値は見つけられるが、かなりの時間がかかる。また、インターネット上に全国の大学の教育情報を公表・活用する仕組みとして、「大学ポートレート」があるが、そこに掲載されている内容は必ずしも一貫性がなく、比較もしづらいし、大学側の反対もあり、意外と基礎的な数値が掲載されていない。勝手な都合を言えば、そこからデータベースを作ろうと思う人間にとっては一覧性がないのも不便である。

『学校法人一覧』もしばしば活用している冊子の一つである。文教協会が作成していた冊子と比べて、理事定数、監事定数、評議員定数、専任教員実数、専任職員実数の記載がなくなってしまったのはきわめて残念である。いずれもきわめて基礎的な情報だが、学校法人によっては公表していないし、これらをそれぞれの機関のホームページから探し出すのはそれなりに時間がかかる。

文教協会が解散後、文部科学省がデータの更新をしていくことになったと聞いているが、大学の設置認可行政をしているのだから、もともと定員情報は文部科学省が持っているとも思う。将来的には、文部科学省のホームページなどから、必要なデータがすぐにダウンロードできる仕組みが整っていくことが望ましいと考えているが、現時点では、冊子体の大学一覧が重要な役割を担っている。ぜひ大学に1冊置いて活用していただくことをお勧めしたい。